

バグダッド日誌（4月23日）

○出国100日目！

日本を出国して100日目を迎えた。[]がR&R中であるが、残り4人は元気に100日目の朝をバグダッドで迎えた。同じ100日という時間でも「もう100日」、「やっと100日」と人によってそれぞれ感じ方の違いはあると思う。我々バグダッド連絡班は一同に、「もう100日経ってしまった。」という感が強い。それぞれの持ち場を必死に守り、日々精度の高い業務ができるよう努力しているうちに、時間が矢の如く過ぎてしまったという感じである。

我々が出国して以来、日本から多大な支援を頂いている。本日、日曜日にも拘わらず、留守家族に対する説明会が市ヶ谷で実施された。我々のみならず、家族に対してまで厚い支援・お心遣いを頂いていることに心から感謝している。

留守家族説明会で、市ヶ谷からイラクへ「家族とテレビ電話」という粋な計らいをしてもらい、久しぶりに家族の顔を見て話すことができた。[]の4歳になる娘さんは、久しぶりにお父さんの顔を見たため、目から熱いものがこぼれ落ちてしまいお父さんと会話にならなかった。小さいなりに父親を心配し、「頑張って」そして「我慢して」留守を守っている様子が伝わってきた。

バグダッドから8400km、遠く離れた日本を想い、残された勤務期間一日一日を大切に、「イラク復興」のため「日本」のために努力したい。

([])

○TV電話

「お父さん、もう少し前髪を伸ばした方がいいんじゃない？」TV電話の向こうからの妻の第一声はこうであった。隣で子供が変な顔をして笑っている。やっぱり、声だけの電話と、顔が見える電話では、気分が違ってくる。「お父さん、こんなメールが来たんだけど・・・」子供は、出国中預けている私の携帯電話をカメラの前に掲げる。見える訳ないのだが、たぶん自分の目の前にいるつもりなのだろう。別に「やばい」メールではなく、時期派遣が予定されている人が、質問事項を送ったものらしい。イラクまで届く訳ないのに・・・

私の家族は戦力回復に同行したので、久しぶりの顔というわけではなかったが、上記の班長の日誌にあるように、[]の家族は出国以来の顔見せなので、お子さまは、電話を切った後、号泣されていたらしい。8400kmという距離が、今日は50cm先のTV電話から手も繋げそうな距離にいて、しばらく望郷の念に浸った1日だった。留守家族との連絡を担当されている方々、お休みの日にもかかわらずご支援いただき、ありがとうございました。



バスラLO日々業務報告（4月23日1900）

区 分	内 容
1 警戒態勢	バスラ空港 [] [] (警戒態勢) : []
2 特記事項	(1) [] (2) [] []
3 本日の業務	(1) 情報要求対応 SSR (ISFの戦力化の状況)、MND(SE)の将来計画、IED及びIDF関連情報、デモ関連情報等 (2) 定例情報収集 : [] (3) 定例会議への出席 : 司令部朝・夕会議、J2・J3・J9認識統一会議 (4) 指揮官会議調整 (5) 空路輸送等調整
4 明日の予定	(1) 情報要求対応、定例情報収集 (2) 定例会議出席 (3) 業支隊長のバスラ出張対応
5 その他(備考)	* R&R []